

絞死刑

大島渚

監督
作品

○大島渚プロダクション

死刑を考える日 映画「絞死刑」上映会

日時 2023(令和5)年12月17日(日)

場所 せんだいメディアテーク7階 スタジオシアター
(仙台市青葉区春日町2-1)

上映開始時刻

1回目:10時20分 2回目:13時00分 3回目:15時30分

入場無料・予約不要

主催 仙台弁護士会 共催 日本弁護士連合会 東北弁護士会連合会
(お問合わせ先) 仙台市青葉区一番町2-9-18 (代表) TEL022-223-1001

～あらすじ～

主人公である死刑囚Rは、強姦致死の罪で絞首刑に処せられた。しかし、処刑が失敗する。死刑囚Rは、処刑の衝撃で記憶を失い、心神喪失状態となり、刑事訴訟法の規定により刑の執行を停止される。刑務官達は、再執行のために死刑囚の記憶と罪の意識を取り戻させようと躍起になるが、死刑囚Rの無垢な問いかけは死刑制度の矛盾を浮き彫りにする…

「昭和42年の法務省の世論調査では、死刑廃止反対71%、賛成が16%、日本人の間では、死刑廃止論ということは全く評判が悪いわけだ。つまり日本人は、みんな死刑を肯定しているわけだ。しかし、ここで死刑を肯定している連中は本当に死刑執行をみたことがあるだろうか？あるいは死刑場をみたことはあるだろうか？」

中略

「俺たちは、完璧に死刑場を調べ、本物そっくりの死刑場を建て、俺たちは全く本物の死刑場を作り、そこで、全く本物の死刑執行を行い、それによって皆さんがほんとに依然として死刑に賛成できるかどうか、それを試してみた。」

(大島渚監督 映画「絞死刑」予告編より抜粋)

©大島渚プロダクション

仙台弁護士会の「死刑を考える日 映画上映会」は、今年で第8回目となります。仙台弁護士会は、死刑制度が抱える人権上の問題を踏まえ、2021年2月、政府及び国会に対し、死刑制度を廃止すること、死刑制度が廃止されるまでの間、死刑の執行を停止することをそれぞれ求め、死刑制度廃止の実現に向けた取組を進める決意であることを決議しました。

この映画は、大島渚監督の上の言葉に表れているように、死刑執行の場面をリアリティをもって再現するとともに、死刑制度への根源的な疑問や問題を強烈に突きつける作品となっております。

皆様にとって、この映画上映会が、死刑制度について考えるきっかけとなれば幸いです。 仙台弁護士会

